学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名 称： AI 活用時代における経営教育の変革
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等： 経営関連学会協議会
- 3 開催日時： 令和 7 年 3 月 1 日（土）13:30～17:25
- 4 開催場所： 日本学術会議講堂（オンライン併用）
- 5 開催趣旨： 日本は現在、人口減少や少子高齢化、地球環境問題に直面しつつ、生成 AI（ChatGPT）などの人工知能技術が進展する中、経済成熟化社会の転換点に立っている。本フォーラムでは、2030 年を見据え、企業経営における新たな教育アプローチを模索し、高度デジタル社会で持続可能な価値を創出する経営人材、ならびに、経営専門人材の育成について議論する。
- 6 参加人数： 講演者等： 35 名 その他の参加者： 最大同時視聴者数 94 名
- 7 特記事項： 本フォーラムの成果は、経営学委員会 AI 時代に備える経営人材育成に関する分科会の審議活動（意見の表出）に反映される。

フォーラム概要：

本フォーラムのパネル討論「社会のあるべき姿から見た経営教育の展望」に関しては、2040 年から 2050 年頃の未来をバックキャストし、経営人材教育を俯瞰した討議が行われた。AI の技術にはポジティブな面とネガティブな面があるため、社会にとって何が望ましいのか、何が望ましくないのかを主体的に感じ取り、価値判断を行い、適切に選び取ることができる経営人材の育成が急務である。また、AI が進展する社会では、人間の役割は、高度な対人業務や特殊な創造業務へと移行していくだろうという意見と共に、未来は自ら作りだしていくものという意見も出された。

また、「2030 年に向けた企業経営・会計監査の人材育成に資する教育変革」のパネル討論については、監査・保証基準や倫理基準の国際基準に対するテクノロジー対応の示唆と、経営教育への期待、企業経営における人材育成のポイントとしての人間力の補完・強化とビジネスの効率化・進化という視点、アメリカ経営会計士試験との比較による AI が会計監査業務に及ぼす影響と日本の公認会計士試験の現状の問題提起、リーダー資質としての知力だけでなく、説得力や耐久力、自己制御能力、持続する意思などの重要性が提示、議論された。

今後の提言（見解）を分科会としてまとめていくにあたり、2030 年に向けた経営人材、経営専門人材の育成に関して、AI と経営の融合に対応する教育ガイドラインの整備と標準化、認証制度の整備、経営専門共通基盤としての人間力教育関連科目の整備が肝要である。これらの提言（見解）の対象としては、国・政府機関、企業・組織、高度専門経営人材の育成機関、そして大学などの教育機関を想定している。それぞれに適した形で、本日晒された方向性をさらに深め、今後の分科会での議論に反映させ、具体的な提言（見解）としてまとめていく予定である。